

南会津町青少年の主張大会



小学生の部

審査結果	氏名	学校名	学年	テーマ
最優秀賞	大山 綾仁	館岩小学校	6年	差別のない社会に
優秀賞	金井 音也	桧沢小学校	6年	優しさにあふれた社会にするために
	角田 翔	南郷小学校	6年	ぼくたちにできること
	星 靖人	田島小学校	6年	ぼくの将来の夢
奨励賞	藤 岬	伊南小学校	6年	共に生きる
	弓田 陸	荒海小学校	6年	ぼくとスキーとこの町と
	田口 湊	田島第二小学校	6年	将来への道

中学生の部

審査結果	氏名	学校名	学年	テーマ
最優秀賞	高木野々花	田島中学校	3年	貧困による格差をなくすために
優秀賞	栗城 りな	田島中学校	3年	あいまいな境界線
	星野 双葉	南会津中学校	3年	責任と思いやりをもって
	小杉 美菜	南会津中学校	3年	理解すること
奨励賞	赤羽 晴香	荒海中学校	3年	パレーボールが私に教えてくれたこと
	土器屋小夏	館岩中学校	3年	うそ
	阿久津到也	館岩中学校	2年	日本のコロナ対策についての僕の考え
	湯田 心愛	荒海中学校	3年	だれもが自分らしく生きる世の中に

高校生の部

審査結果	氏名	学校名	学年	テーマ
最優秀賞	星 宏貴	南会津高等学校	2年	祭りがもたらす町の未来
優秀賞	渡邊 太陽	田島高等学校	3年	便利の裏側
奨励賞	白岩 里彩	田島高等学校	1年	人間関係といじめ

7月4日、御蔵入交流館文化ホールで、令和3年度南会津町青少年の主張大会を開催しました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、作文審査のみとしたため、発表会は2年ぶりの開催となります。

町内の各学校から203点の応募があり、学校推薦による18人が出場。各部門で最優秀賞に輝いた主張を、原文のまま掲載します。

穏やかなリズムで、語りかけるかのように、貧困問題を提起する高木さん(8ページに主張を掲載)。「貧困」という世界共通の大きな課題にも、人種を越えて果敢に挑戦できるグローバルな人材としてのご活躍を祈っています！



「なりたくなかった訳じゃないのにー。」コロナウイルスのニュースを見て、ぼくはそう感じた。今、新型コロナウイルスが日本でも流行している。その感染者や医りように関わっている人達に対する差別が増えていく。多くの人がしっかりとした対策をとっているのにも関わらず、感染してしまった人達はどうな感情なのだろう。マスクや消毒をしてもかかってしまい、戸惑っていることだろう。それだけでも大変なのに、ひどい言葉をかけられたり避けられたりしたらどうだろうか。心は傷つき、自分の生き方も否定されているように、生きていけなくなってしまうのではないかと、ぼくは心配になった。

コロナウイルスは恐ろしい病気だと聞いている。いつか自分もかかってしまうのではないかと、誰もが不安を感じている。しかし、かかってしまった人は、誰もかからないと望んでいた訳ではないだろう。そんな人達を悪く言わないでほしい。確かに、ひどい言葉をかける人も、実は病気に對する不安があったり、死者も出ていることで自分はどうしたいかと考えているのだろう。しかし、どんな理由があろうとも人を傷つけることは絶対にしてはいけないことだと思う。だって、私たちは生きる上で平等なのだから。

ぼくは、今「脱毛症」という病気にかかっている。頭部の毛がぬけてしまう病気だ。その理由で、

ぼくは帽子をかぶっている。このことが、周りの人に理解してもらえないと不安な気持ちになるのだ。こんな体験を数年前にしたことがある。ぼくが旅行でお風呂に行ったときに、他のお客さんにじろじろ見られたり、友達とけんかをしたときになど「はげ！」と傷つく言葉をかけられたりした。ぼくはまだ小さかったのですが、悲しい気持ちになり涙を流したこともあった。でも、今は学級の人みんなは帽子をかぶっているように、いまいが、みんなと同じように接してくれている。ぼくという存在を分かってくれている。ぼくも、髪の毛がないだけで、みんなと同じなのだ。と改めて感じる事ができた。

ぼくもそうだが、病気の人はなりたくなっている訳ではない。だからこそ、周りの人達は外見が違う、表現の仕方が違うという理由で判断しないでほしい。誰もが一生懸命に生きていて、私たちはみんな平等だということを忘れないでほしい。ぼくはこれから先、中学校・高校・大学と進路を進んでいく。その中で、周りの人に自分の病気を分かってもらえないといけない。自分の病気を気にせず

自分の胸に手を当て、実体験を振り返りながら、差別の解消を力強く訴える大山さん。
大山さんの将来は無限に広がっています。年齢、性別を問わず、多くの人と関わり合い、差別のない平等な社会を、ぜひその手で作り上げてください！



に、公にできるような心をもって生活していきたい。まずは、自身に差別をやめよう。他人を思いやり、心がければ、差別のない平和な世界ができあがると自分は信じている。みなさん、差別のない世界にするために、手を取り合い、協力していきましょう。

館岩小学校6年
あやと
大山 綾仁さん



田島中学校 3年
高木 野々花さん

私達は今、学校に通っています。学校に行き授業を受けるのは、私達にとってあたりまえのこと。迷う余地ありません。しかし、世界にはそれがあたりまえではない国があるのだということを、私は知りました。

小学生の時、クラスに海外で生活している日本人の男の子が短期留学をしてきました。両親の仕事の都合でインドネシアに移住し、今回日本へ来た彼は、インドネシアでは貧富の差が激しいこと、金をつけないと荷物を盗まれたり、お金をだまし取られたりすることがあると話してくれました。私達の生活や環境とあまりにもかけ離れていて驚いたことを覚えています。ですが、その時はそれ以上話を聞くのは何だか失礼な気がして、彼

に詳しく話を聞けませんでした。

最近「SDGs」が世界的規模で取り組みを始めましたが、その中に「貧困をなくそう」「質の高い教育をみんなに」という目標があることを知りました。インターネットで調べてみると、現在、世界で学校に通えていない子供は約二億六四〇〇万人だということです。その理由は「学校が近くにない」「学校に通うお金がない」というものでした。日本の人口が約一億二五〇〇万人として、その数を大きく上回る子供が学校に通えない状況なのを初めて知りました。これは、未来の世界の発展を大きく揺るがす深刻な事態だと思いました。

学校に通えないことが原因で、

起こる問題もあります。例えば、読み書きや計算ができないことによつて「地雷」の文字が読めず危険な目に遭ったり、給料やおつりの金額がわからずだまされたりするという二次被害もあるそうです。また、知識や技能を身につけられず仕事を選ぶことができないということから、本人だけでなく、彼らの子供達にも同じ環境を強いることになってしまうこともあるそうです。こうした問題は、一刻も早く改善していかなければならないと思います。

では、彼らのために私達ができることはどんなことでしょうか。もちろん簡単なことではありません。まずは「知らない」ということに原因があると思うのです。小学生の私は相手に遠慮して深く知ろうとはしませんでした。私と同じようにこの状況を知らない人がたくさんいるのではないのでしょうか。しかし今、SDGsが叫ばれるようになりました。「貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにする」という目標を掲げ、みんなで協力すべき時がきたのです。同じ人間として貧困に苦しむ彼らの状況をよく知ること、今、

自分達にできることが見えてくると思います。発展途上国の人々の生活を助ける活動をしている団体は世界中にあります。そうした団体に入って活動したり、団体に寄付をして活動を支援したりすることもできます。また、不要になったものを寄贈したり、それを売って売上金を寄付したりすることもできると思います。彼らの生活をよりよくする方法は、まだまだたくさんあります。それを真剣に考えていく必要があると思うのです。

私は東日本大震災の時、南相馬から父の実家の千葉に移り、そして今、南会津町で生活しています。震災から十年が経ち、たくさんの人の思いと復興への試みにより、南相馬の地も昔に戻りつつあります。私も高校進学を機に向こうへ戻る予定です。貧困の問題とは異なるかもしれませんが、状況を知り、皆が復興を目指したからこそ、今の福島があるように、今の発展途上国の現状を知り、平等な生き方を目指すことで「変わる」ことができる」ということを、私は知っています。日本人、インドネシア人ではなく、同じ人間を救おうと努力することで解決の道が開けていくのだと私は思います。

私の住む南郷地域には、毎年九月に南郷豊年祭りという祭りがあります。子供カラオケや打上花火が行われたり、多くの出店が立ち並んだりしてとても賑やかで楽しい祭りです。私は、この祭りに幼い頃から参加してきました。かき氷や綿あめを買ってもらったり、金魚をすくい過ぎてしまったり楽しい思い出がたくさんあります。一年間で最も楽しみにしているくらい私の中で特別な行事です。高校二年生になった今もこの気持ちは変わりませんが、高校を卒業してしまえば祭りに参加するのは難しくなるだろうと思うと、悲しくもなります。また、昨年新型コロナウイルス感染拡大の影響で祭りが中止になった時には、悔しさも感じました。今年も開催されるか

は分かりませんが、来年は南会津高校と合同で行われる祭りになります。その時は学校の、そして地域の一員として、精一杯祭りを盛り上げたいと思います。

さて、そんな思い出深い南郷豊年祭りだけでなく、南会津町や日本各地にはバラエティーに富んだ祭りが数多くあります。中には何百年と歴史を持つものもあり、人々が脈々と祭りを大切に受け継いできたことが分かります。では、どうして日本全国で大昔から祭りは行われてきたのでしょうか。豊年祭りに「その年の豊作を祝って、来年も五穀豊穡であるよう祈る」という理由があるように、他の祭りにも行う理由が様々あると思いますが、私は祭りには共通する一

つの意義があると思っています。それは「人々の団結力を高める」というものです。祭りは大勢の人々の力で成り立っています。屋台やイベントの準備・運営は決して一人でできず、神輿を担ぐにも山車を引くにも多くの人々の団結が必要不可欠です。こうして祭りによって人々の団結が深まると、日常でも協力し合えるようになって地域全体に活気が溢れるようになります。活気は、地域の発展に繋がります。人々は常に更なる発展を求めて、祭りを行い続けてきたのではないかと私は考えます。

今、南会津町は人口が減少し続けています。このままでは二〇六〇年に人口が六千人を下回ると言われています。要因には少子高齢化と共に若者の都市部への流出があるとされており、食い止めなければ町の存続にも関わってくるのです。私たちの大事な故郷がなくなるのを黙って見ていることはできません。人口減少を防ぐために、私は南会津町全体で人々が団結すべきだと考えます。その為には、祭りをを行うことが最も効果的です。年々祭りの運営は難しくなっているかもしれません。しかし、

緊張した様子もなく、常に前の一点を見据え、堂々と祭りの重要性を説く星さん。
南郷豊年祭りをはじめ、地域に根付く祭り文化を生かし、若者が元気に活動できる地域づくりの「旗振り役」として、ご活躍されることを期待しています！



老若男女を問わず地域住民が一致団結すれば必ず祭りは続けられます。南会津町にある個性豊かな祭りの数々は町の重要なアピールポイントでもあり、なくしてしまうのは非常に惜しいことです。祭りを残すために若者も巻き込んで団結し、若者が町に興味を持つきっかけとして、若者のUターンを促進させましょう。私は、祭りによってこそ、町の発展が成し遂げられると考えます。

南会津高等学校 2年
星 宏貴さん